


那加三地区だより

やさしい心とおもいやり あなたがひろげる福祉の輪

平成28年9月15日 No.60

編集・発行

 那加三地区
社会福祉協議会

近隣ケアグループ研修会実施!

—— ささえあう那加三地区をめざして ——



キャラクター「サポート君」

1.代表者懇談会 (5/17) 出席者37名

那加三地区27の近隣ケアグループ代表者が一堂に会して、活動をよりよいものにするために次のような情報交流を行いました。

- ①グループ員や代表の選出方法
- ②選出にかかわる問題点
- ③代表やグループ員の引き継ぎの状況
- ④近隣ケアグループと自治会との連携
- ⑤近隣ケア活動の内容



2.第一回研修会 (6/14) 出席者106名

近隣ケアグループ員、自治会長、民生・児童委員が参加して開催しました。

まず市社協、総務地域福祉課の川瀬初美主査から、社会福祉協議会と近隣ケアグループの役割について学び、見守り活動の具体的な事例を教えてくださいました。プロジェクターを使ったわかりやすい説明でした。27の自治会別の高齢化率が、10年前と比較した棒グラフで示されたときは、会場から大きなため息が起きました。大半の自治会の高齢化率が急激に高まっていることを実感し、「地域でささえあう近隣ケア活動」の必要性を改めて認識しました。

次に、地域包括支援センターの野村聡センター長から包括支援センターの活用の仕方について学びました。「高齢者総合相談センター」として、どんなことでも気軽に相談してほしいとのお言葉をいただきました。

高齢化率・3年間の変化

| | H.28 | H.27 | H.26 |
|-------|-------|-------|-------|
| 那加三地区 | 26.4% | 26.1% | 25.3% |
| 各務原市 | 26.5% | 25.7% | 24.8% |

※H28.4.1現在

近隣ケアグループ研修会アンケートより

■ケアグループ出席者数 71名 ■アンケート回収数 46名
■回収率 65%

アンケートへのご協力ありがとうございました。その中から一部抜粋させていただきます。

1 研修会に参加して感じたこと

- 初めて出席させて頂き、近隣ケアの活動内容がよく分かった。
- 大変な活動をしなくてはならないと思っていたが、無理のない声かけ等の活動とのことで安心した。
- 資料の字も大きくカラーで絵づけしてあり理解しやすかった。手元に資料配布いただきよかった。
- 活動状況をDVDで観させて頂き分かり易かった。
- 地域の高齢化の推移など、グラフにより実感できた。
- △新人とベテランは別々に研修した方がよい。
- △活動ノートを持参して勉強するとよいのではないか。
- △平日の研修会では参加できる人が限られてしまう。

2 日頃の活動で感じていること(◎うれしかったこと△残念だったこと)

- ◎自治会の人達との会話が少なかったが、近隣ケア役員になったことでコミュニケーションが多くとれるようになった。
- ◎声かけをすると嬉しそうに話してくださる。話し相手が欲しいのだと思う。
- ◎この役をやらなかったら近所の人と話す機会もなかった。近所の人と話がよくできるようになった。
- ◎近隣ケア訪問で、喜んでもらえ、感謝の言葉をいただけた。

- △あまり人の世話になりたくないのか会話も好かない人もいる。
- △何回訪問しても留守でお会いできないことが多々あったこと。
- △仕事をもっている方も多く、グループの方々と接する機会が少ない。

3 今後地域で取り組みたいこと

- ・近所に1人暮らしの方が3人みえる。いつも気にかけているが、今後もできることから気にかけていきたい。
- ・自治会の集会所として近くのボランティアハウスがお借りできるように助かる。自治会との交流ももてるようになっていくとよい。
- ・シニア同士の互助の触れ合いを年4・5回は企画したい。
- ・活発に活動されている地域の方に、どういった運営をしているのかお話を聞く機会があればよいと思う。
- ・脳トレ、認知予防、災害時の避難や日頃の心構え等についての講習会。
- ・参加される方が殆ど決まっている。自治会と共に声かけをしてもっと盛り上がるようになればよい。

わが校の福祉教育

地域で見守られていたあの子どもたちが…
『目標』『努力』『感動』の夏

那加中学校 校長 加藤 勝祥



今年の夏、本校3年生は、中体連市大会で群を抜く成績を納めました。優勝:野球・サッカー・男子ソフトテニス・男子ハンドボール・男子バドミントン・女子バスケットボール。準優勝:柔道・男子バスケットボール・女子バドミントン・女子ハンドボールでした。

それぞれ部活で「努力」が実を結び「感動」を分かち合った夏でした。小学校1年生から9年間、地域の方々・見守り隊の方々に見守られてきたあの3年生がここまで来たのです。この成果の背景は、学校全体の【活気】と【落ち着いたき】にあるのではないかと多くの地域の方々からお褒めをいただきました。

その3年生は今後進路決定という、さらなる大きな「目標」に挑戦します。自分の抱く大切な「目標」を実現させることができるのは、自分だけです。誰かが代わりに叶えてくれるものではありません。では、どうやって「現実のもの」にしていくのか。それは日々の「努力」しかありません。「現実」と向かい合う「努力」が必要なのです。部活の「努力」と根っこはまったく同じなのです。

未来はいつ作られるか。未来は今から作るものなのです。

この夏、大きな「感動」を手にした学年。きっと3月、さらに大きな「感動」を手にするものと確信しています。そして、これからも那加中学校全体が、地域のみなさんから信じられ、支えていただけるよう【活気】と【落ち着いたき】を伝統として後輩は受け継ぎ、守り続けてくれるものと信じています。これからも応援よろしくをお願いします。

星上で 待つ君ここに 迎えんと 渾身の一打 さよならの夏 祥

『すてきな学校』をめざして

那加第三小学校 校長 大橋 久也



昨年度末の「6年生を送る会」で、5年生(現6年生)が、流行っていたフレーズを使って先輩を送り出しました。

「安心して下さい。すてきな学校にしますから」。今年度、この『すてきな学校』を全校の合い言葉としていろいろな場面で使っています。

学級毎に取り組む内容を考え、自分たちのできることに真剣に取り組む「N-1」活動。

- ロッカーの整頓
- 素早い給食配膳
- 責任ある係活動
- きれいな食器片付け
- 下駄箱の靴を揃える
- 教室の整頓
- トイレスリッパの整頓
- 等々

学校生活の様々な場面に大切な価値を見つけ付け出しました。実はこれらこだわりの先には、必ず誰か相手が意識されています。次の人のために、スリッパを揃える。教室を40人みんなで快適に使うために、ロッカーの荷物や教室全体を整える。給食を作ってくださった方に感謝して、きれいに食器を片付けよう。楽しく残さず食べよう。一人一人の行動が、学級みんなの取り組みが必ず誰かの役に立つことにつながる。

この経験こそが、福祉教育のスタートであると信じ、これからも全校で「すてきな学校づくり」に取り組みます。

ボランティアハウス懇談会 (7/25 出席者31名)

那加三地区では8つのボランティアハウスが運営されており、それぞれのハウスの活動状況懇談会が実施されました。

多様な活動内容の工夫、運営ボランティアの確保、活動費不足への対応など、多くの意見や提案がなされ、熱気溢れる懇談会になりました。



暑中見舞いはがき ~心を込めて書きました~

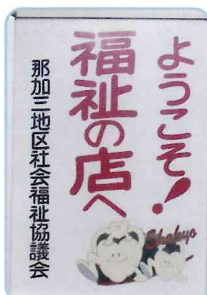
今年も121名のお年寄りに242枚の暑中見舞いはがきが届けられました。那加第三小学校5・6年生の皆さん、やさしい心をありがとう。



第21回夏祭り盆踊り大会 (8/6)



| | |
|---------------|---------|
| エンジェルハウス | 5,050円 |
| あしたの会 共働学校 | 31,000円 |
| 虹の家・友愛の家・あすなろ | 8,750円 |
| 星の村 | 9,960円 |
| 合計 | 54,760円 |



那加第三自治会連合会主催の夏祭り盆踊り大会に、那加三地区社協も「福祉の店」を出店しました。

校区の皆さまの温かいご協力ありがとうございました。売上金は左記の授産施設へお届けしました。

